

ニューズレター 第5号

大阪学院大学外国語学部

外国語学部は実績主義

—夢を実現した先輩に続いて下さい—

2011年3月30日発行

外国語学部の学びのポイント

外国語によるコミュニケーション能力(英語、独語、仏語を、読み、書き、聴き、話す力)を最大化することによって、学部生の 1) キャリア形成(教職を含む) 2) 留学 3) 大学院進学をサポートします。

遠回りして掴んだ夢

河邊 麻利江さん(英語学科 2006年卒業。在学中オーストラリア・スクールインターン・プログラムに参加。現在、田原市立童浦小学校教諭)



小学校の教員として、今年で3回目の春を迎えます。教員となった1年目は、毎日の授業に精一杯で、「子どもたちを引っ張っていかなくては・・・」という思いが大き

く、自分で結論を出してしまうことも多かったのですが、今はやっと子どもと一緒に悩み、考える余裕ができました。それでも慌ただしい毎日ですが、喜怒哀楽を身体全体で素直に表現する子どもたちに、いつも新しい発見や感動をもらっています。

大学に入学した当初、「英語を教える仕事に就きたい」と考えており、教職課程を履修していました。

しかし、その頃は「絶対に教員になりたい」というような強い思いはありませんでした。ただ、人に何かを伝えるという仕事に興味があったので、学内のオーストラリア・スクールインターンプログラム(日本語教員助手)や大阪府スクール・ボランティアに積極的に参加しました。また、授業後は、ゼミナールの先生に勧めて頂いた I-Chat Lounge で先生方や留学生と英語で交流を図り、異文化について学んだりし、とても充実した学生生活を送っていました。しかし、大学4年生のときに受けた教員採用試験に合格することはできませんでした。その後、内定をもらっていた地元愛知の進学塾に就職をしました。

社会人になり、まずは教壇に立つことを目標に日々授業研究に励み、就職してから半年後にやっと教壇に立つことができました。初めは思うようにいきませんでした。徐々に結果が出てくるようになり、やりがいを感じるようになりました。一方で、就職して3年が過ぎ、結果を出せばその分評価してもらえる会社に満足していたものの、「本当に自分が教えたかったのは、英語の文法なのか」という疑問をもつようになりました。その時に思い出したのが、学生時代に経験したスクール・ボランティアでした。スクール・ボランティアの活動は、学習の補助や休み時間に子どもたちと一緒に遊んだりすることでしたが、その中で子どもたちの喧嘩に遭遇し、人の痛みを感じたり、協力して何か一つの事を成し遂げたりする喜びを日々新鮮に感じていた学生時代を思い出しました。そこで、もう一度小学校のスクール・アシスタントの仕事始めることを決意しました。



安定した収入のある会社を辞め、ボランティアに近い仕事をすることに両親は反対

しましたが、自分の中でもやもやしたものをすっきりさせたいという気持ちがありました。

スクール・アシスタントの仕事は、ボランティアの時と同様、担任補助として学習支援や休み時間に子どもたちと一緒に遊んだりすることでした。アシスタントとして働いて半年が過ぎた頃、学校の校長先生から、「その歳でアシスタントではもったいないから、小学校の教員免許でもとってみないか」と勧められました。「今更また教員免許を取るのも・・・」と思いましたが、担任補助ではなく、自分で担任をもってみたいという思いも、正直なところ心の中にありました。そして、本格的に小学校免許取得について調べ始めました。幸い、私は大学で中学校の教員免許を取得していたので、その単位を合わせれば、小学校の免許を最短1年で取得することが可能だということがわかりました。アシスタントとして2年目の春、仕事をしながら通信制の大学で免許を取るための勉強を始めました。また、1年で免許を取るという目標と共に、教員採用試験合格という目標も立てました。学生の頃は「英語を教える仕事に就きたい」という漠然とした夢でしたが、その時は年齢という焦りもあったせいか、「必ず小学校の教員になる」という強い思いに変わっていました。子どもが学校にいる時間は仕事をし、夕方から免許取得のためのレポートを書き、夕食後は教職教養の勉強、朝は仕事に行く前に小学校全科の勉強に励みました。そして、夏休みは大学に授業を受けに行き、授業がない日は学童保育所で子どもたちと過ごすボランティア活動も行いました。その結果、何とか採用試験に合格することができました。

現在の勤務校では、国際理解・外国語活動主任としての仕事を任せられています。主にALT (Assistant Language Teacher: 日本人教員を補助するために配置される英語を母語とする教員) の先生との授業計画や相談役をしていますが、学生時代に経験したオーストラリアでのスクールインターンで自分も苦労したからこそわかることもたくさんあります。また、進学塾での経験があったからこそ、子どもを引き付

ける話し方やわかりやすい授業の工夫が今に活きていると感じます。大学を卒業し、随分遠回りをして今の仕事に就きましたが、決して後悔はしていません。私にとってすべてが良い経験で、どの経験も今自分の力になっています。

今学生の皆さんに伝えたいことは、とにかく皆さんの事に挑戦し、いろいろな経験を積んでほしいということです。大阪学院大学には、たくさんのチャンスが転がっています。きっと自分が経験したことは、将来何らかの形でみなさんの糧になると思います。

(コウベ マリエ)

ドイツ留学から現在

若井 寛実さん (ドイツ語学科 2010年卒業。在学中トリア大学 (ドイツ) に留学。現在、三光株式会社勤務)



トリア大学

私は学生時代、外国語学部のドイツ語学科に所属し、交換留学生としてドイツのトリア大学へ約1年間留学させてもらいました。それまで日本を出たことのなかった私は、初めて海外へ渡航するということが期待に胸を膨らませていたのですが、現地に着いてからはその期待が一気に不安へと移り変わりました。留学前までは大学の授業でドイツ語を学んでいたため、ドイツ語を使うことに対して少しは自信

があったものの、当然のことではあります、ドイツではあらゆる状況において実践でドイツ語を使用しなければならなかったため、たかが1年そこそこドイツ語を勉強した私程度の語学力ではドイツ語がまったく理解できず、生活することもままならない状態でした。最初の2週間は毎日が嫌で嫌で日本に帰りたくて仕方なかったのですが、3週間目になってくるとドイツ語も少しずつ上達し始め、学校の友人ともコミュニケーションがとれるようになり、ドイツ生活にゆとりが出てくるようになりました。そして1ヶ月後には学校の先生や友人たちとお祭りに行ったり、居酒屋で朝まで飲んで騒いだり、いつの間にかドイツでの生活が楽しくなっていました。



トリア大聖堂

留学当初は帰りたくて仕方がなかった私ですが、帰国後はドイツの生活や文化、街並みに魅了されて将来ドイツで生活し働いてみたいという意識を持ち始め、ドイツに支店のある会社に就職しようと思うようになりました。しかし私が就職活動を始めた時期というのは、リーマンショック直後で景気がかなり不安定になってしまい、新入社員の採用予定がまったくない企業や、一度は内定通知を出すも後日採用を取り消す企業が続出し、悲惨な状況下での就職活動でした。このような状況での就職活動の中、私は必死になって何社も受けましたが、受けては落ちの繰り返しで、面接までこぎつけても所謂「圧迫面接」と呼ばれる厳しい面接にも数回遭い、面接官から人格を否定されているのではないかと落ち込み、何度も心が折れそうになりました。しかし、将来ドイツで生活し働いてみたいという意識と、ドイツへ留学して得た経験が、常に私を前向きな気持ちにさせてくれて、苦しかった就職活動にも積極的・発展

的に取り組むことができました。

そして現在は、縁あってドイツに支店のある化学品商社に勤めることができました。現在は社会人1年目ということもあり、まだまだ見習いで右も左も分からない状況ですが、仕事内容によってはドイツ語を使用する場面も出てきていますので、今後は自分でドイツ語を活用できるフィールドを広げ、再びドイツで生活し働きたいという夢を実現させたいと思っています。

(ワカイ ヒロミ)

高校生と大学をつなぐ仕事

三宅 法子さん (2006年英語学科卒業。在学中ケンブリッジ大学(イギリス)での語学研修に参加。現在、大阪学院大学勤務)



学校法人 大阪学院大学へ奉職して、今年で6年目になります。私は入試事務室という部署で、入試広報業務をメインに仕事をしています。主な仕事は、大

学の魅力を高等学校訪問や進学説明会を通じて、高等学校の先生や高校生、保護者の方にPRしたり、入試情報やイベントの開催などを適時にご案内することなどです。

これまでの仕事の中で一番嬉しいと感じたことは、ある進学説明会で保護者の方と一緒に本学のブースへ来られた高校生が、本学に興味を持たれて、オープンキャンパスにもお越しいただき、そして入学式の日にお二人が私のもとを訪ねてくださり、「あの日の進学説明会で三宅さんが真剣に話をしてくれた

ので、大阪学院大学に興味を持って、入学したいと思いました！本当にありがとうございました！」というお言葉をいただいたことです。その時は、本当にこの仕事をしてよかったと心から思い、とても嬉しく涙が溢れました。その学生とは入学してからも交流があり、「入学してよかった」と言ってくれていることが今は何より嬉しいです。

また、オープンキャンパスや入学試験が始まる前には、それらの情報をポスターにして伝達するという仕事も担当しています。電車の中や駅の構内に掲示するポスターは多くの人の目に触れるもので、私にきちんとしたものが作れるのか、最初は不安でしたが、頼れる上司や先輩にも恵まれ、適切なアドバイスをいただいた結果、時間をかけて制作に携わったものが世の中に出て、みなさんに見ただけのことの喜びを実感し、今はやりがいを感じています。



大阪学院大学で学んだ4年間は、毎日が本当に充実していて、楽しい思い出ばかりです。2年次の夏にはイギリスへ語学研修

に行きました。現地の方に英語で話しかけることに最初は自信もなく、なかなか勇気が出ませんでした。この機会を無駄にはできないと決意し、臆することなく話しかけていきました。現在仕事上、初対面の方とお話することが多いのですが、あの研修のおかげで、人前でもあまり緊張しなくなり、訓練させてもらえたと思っています。また、本学は他学部の授業も履修できるので、興味のある授業は全て履修しました。そのおかげで、本学に興味を持ってくださる高校生や保護者の方に、各学部の授業の様子や特色を説明する際、実体験を交えながら説明できるので、広報業務に非常に役立っています。

大学生生活も、そして卒業してからの人生も自分次第で楽しくもなり、つまらなくもなると思います。在学生の皆さんには、その時の出会いを大切に、何事にも興味を持ち挑戦し、前へ前へ進んでいってほしいです。「大阪学院大学を卒業してよかった」と一人でも多くの方に言ってもらえるような大学づくりを、大学職員として今後も取り組んでいきたいと思っています。

(ミヤケ ノリコ)

TOEIC750点から 英語で商品アピールする仕事に

大石 梨名さん (2011年3月英語学科卒業見込。4月より株式会社パナケミカル入社予定)

私は2011年春から東京都杉並区にあるパナケミカルという会社に就職予定です。パナケミカルは主に発泡スチロールのリサイクルを行う専門商社です。私がこの企業に決めた理由は、英語を使ってモノを

売る仕事ができるからです。



私は中学の頃から、英語が使える仕事に就きたいと思っていました。大学2年生のとき、ビ

ジネス英語のスキルを身につけるため、TOEICを勉強しました。もともと英語は好きでしたが、留学経験がなかったので、自分の英語にあまり自信がありませんでした。大学に入って、まわりの友達が留学に行き始め、私は取り残されたような思いでした。

しかし、負けず嫌いな私は、留学に行かなくても英語力を上げることができることを証明したいと思い、自分の英語力に自信を持つため、毎日コツコツ必死で勉強しました。最初の受験では目標を600点に設定し、1ヵ月間毎日6時間かけて勉強した結果、655点を取得する事ができました。そして次の目標として700点を設定し、目標達成のために自分の弱点を徹底追究しました。私の弱点はリスニングでした。弱点克服には英語のリズムや国ごとの発音の違いを感じ取ることが必要だと思い、学校へ向かう電車の中でリスニングのCDを暗唱できるまで繰り返し聴きました。しかしそれだけでは700点を取るのには難しいだろうと思ったので、練習問題を解いてわからなかった単語を抜き出し、オリジナルの単語帳を作りました。単語は1日50個覚えるようにしました。そんな地道な勉強を重ねたことで、次のテストで750点を取り、目標スコアを達成することができました。ある程度自信がついたところで、英語を使う仕事に就くことを真剣に意識し始めました。

そして3年生の夏、本格的な就職活動を始める前に、自分のやりたいこととは何か考えました。私は自分の力でモノを売りたい。しかも日本語だけではなく、英語で商品をアピールできるようになりたい。そう思ったので、営業と英語を軸にして就職活動を開始しました。様々な企業を受ける中で、自分の就職活動の軸がより明確になっていきました。しかし、予想以上に現実には厳しいものでした。以前に比べて現在は男女雇用均等が進んでいるとは言っても、やはり女性の営業職採用は少ないものです。しかもこの不況下、採用予定人数を大幅に下げている企業も少なくありません。厳しい現実を突きつけられた私は、就職活動の軸を大きく変更しようかとも思いました。やりたいことを職業にすることが無謀なのではないかとも思い、夢をあきらめかけました。

就職活動を始めて1年たったころ、キャリアセンターの方からある企業を紹介して頂きました。その

企業がこれから私が勤めることになるパナケミカルです。パナケミカルは主に海外の企業を取引先としているため、コミュニケーションに英語が必須です。さらにパナケミカルは女性の営業職を探していたので、私にはぴったりの企業だと感じました。しかし、ひとつネックに思っていたことがありました。それは勤務地が東京ということでした。私は一人暮らしをしたことがないため、自分で生活しながら仕事をする事ができるか不安でした。じっくり考えた末、そこで働くことに決めました。自分の夢が叶えられるなら、どんな苦勞もするべきだと考えたからです。そしてなによりも周りからの後押しが大きかったです。これだけ応援してくれる人がいるなら頑張れるだろうと思いました。

これから楽しい事だけでなく、苦勞する事もたくさんあると思いますが、すべて自分のこれからの糧になると思って、今まで通りマイペースにコツコツ頑張っていきたいです。そして、英語力をもっともっと磨き、自分の力でモノを売って周りから信頼される営業ウーマンになりたいと思います。

すでに将来の夢を持っている人は、努力を惜しまなければ夢は必ず叶うと思います。やりたいことがまだ見つかっていない人は、いろいろな事に挑戦してみてください。自分の興味や関心、可能性はどこにあるかわからないものです。できないと決めつけるのではなく、とりあえず挑戦してみることが必要です。成功するかしないかは関係ありません。たとえ失敗してもこれからの糧になるはずですよ。そう信じてみることから始めてみてもいいのではないのでしょうか。小さな心がけで人生は変わります。実際私の人生は小さな心がけで大きく変わりました。

(オオイシ リナ)



部活動で学んだこと

大路 静香さん（2011年3月英語学科卒業予定。4月より株式会社 光洋入社予定）

大学生活を振り返って思うことは、4年間は長いようで短かったということです。私は4月から社会人になりますが、まず就職活動についての話から始めたいと思います。

私が内定を頂いた会社は株式会社光洋というスーパーで、仕事内容は販売です。最初は名前も知らない会社でしたが、学内企業説明会でお話を聞いたのがきっかけでした。流通業界にあまり興味がなかったのですが、お話を聞いてみて他のスーパーにはない魅力を感じて受けてみようと思いました。選考に進ませて頂く中で興味を持つようになり、自分がその会社で何をしたいのかが見えてきました。そして、3ヶ月間の選考を経て、内定をいただくことができました。キャリアセンターの職員の方々には履歴書の内容を見ていただき、一緒に考えてくださったり、選考を受けている間もよく相談にのっていただき、とてもお世話になりました。



次に、大学生活についてお話ししますと、私が大学4年間の中で一番印象に残っているのは部活動です。私は1年次の時に先輩が勧誘して下さったことをきっかけに、学友会という部活動に入りました。主な活動は

クラブやサークルが提出する書類の管轄や電話受け付けをしたり、学園祭の運営など大学の様々な行事に携わっている生徒会のような組織です。

入部したばかりの頃は、書類や電話の受け付け、それらの整理・管理など、地道ながら覚えなければならぬことが多く、とても大変でした。その中でも大学の1つの大きな行事である学園祭の運営に携わることができ、3年次の時に学園祭の実行委員をさせていただきました。委員で話し合った結果、学園祭の目玉イベントとしてお笑いタレント（ガレッジセール、中川家、ジャルジャル、サバンナ）を招き、お笑いライブを開催することになりました。1人でも多くの方にお越しいただきたいと考え、特に力を入れたことは宣伝です。大学内の掲示板にポスターを掲載したり、学園祭のパンフレットの業者やチケット会社に依頼し、ライブ情報をインターネットに掲載するように手配しました。また、チケット販売ではできるだけ手頃な価格でチケットを販売したいと考え、学内販売では1枚200円、学外販売では1枚500円で販売させていただきました。その結果、学内販売は販売開始1日目でチケットが完売し、また学外販売でもライブ当日までにチケットが完売となりました。当日は1000人の方にお越しいただくことができました。

私はこの経験を通じて、多くの方々の援助を頂戴し、その結果として学園祭の成功につなげることができたということを学びました。さらに、この経験が就職活動でも活かされたのだと思います。私が受けた企業は求める人物像の中に「チームワークを高めたい人」と書いてありました。中学校から6年間所属したバスケットボール部、そして大学で所属した学友会で、チームワークの大切さとその築き方を学んだその経験が、就職活動に大いに役に立ったと思います。

とは言え、大学での部活動の中では楽しいことばかりではありませんでした。話し合いをする際に意

見が上手くまとまらなかったり、部員の間でもめてしまう場面もありました。それでも4年間続けてこられたのは、部活動の仲間が助けてくれたり支えてくれたおかげだと思います。そして、意見がぶつかった場合でも、自分の意見だけを主張するのではなく、相手の意見も尊重し、互いの意見の協調点を見出す姿勢を学びました。私は学友会を4年間続けることができ本当に良かったと思っています。学友会を通じて楽しい経験も辛い経験も、今後何かに活かされるはずだと思います。これからも何事も逃げ出さず頑張りたいと思います。

これから就職活動をする方々に先輩としてアドバイスしたいことは、学生生活を無為に過ごすのではなく、何か1つでも自分が頑張って取り組んだことを見つけてほしいということです。それが、就職活動の中で自分の自信となり、成功につながると思います。実際に就職活動では、学生時代に力を注いだことや、自己PRを尋ねられる場面が数多くありました。その際、何か1つでも自分が真剣に取り組んだことがあれば面接で胸を張って話すことができ、取り組んだことを通じて自己PRにつなげることができると思います。

加えて、もう1つ学生生活を有意義に過ごすために思うことは、4年生になる前に、留学でも旅行でもよいですから、海外に行く経験をしておいたほうがよいと思います。私は在学中海外に行きそびれてしまい、今もっといろいろな所に行っておけば良かったと感じています。就職すると長期の休みはなかなか取れないと思いますので、大学生のうちいろいろな所に行っておけば、楽しみながら日本とは異なる文化・習慣の違いを肌で経験することも大事なことだと思います。

大学生活は長いようで短いので1日1日を大切に、充実した学生生活を過ごすようにしてください。

(オオジ シズカ)

I-Chat Lounge で大きく変わった大学生活 —大阪学院大学で得たもの—

中尾 昂世(ナカオ タカヨ) (英語学科 2011年夏卒業予定。在学中ラウレア応用科学大学(フィンランド)に留学)

私の大学生活は、たまたま通りかかった I-Chat Lounge の中を覗いていた時に大きく変わりました。大学では英語を専攻しているにもかかわらず、全く英語が分かりませんでした。ただ何となく「英語が話せたらカッコいい!」という思いから専攻を決めてしまった私は、I-Chat Lounge で “What’s your name?” と言われた時、何も答えることができずただただおどおどしていました。しかし、英語を話している先輩たちをみて、「いつか私もあんな風になりたい!」と思い、毎日5分でもいいから I-Chat Lounge に通うことを決めました。I-Chat Lounge では、英会話を勉強することはもちろんのこと、学部や年齢が全く違う友人が出来たり、留学について教えてもらったり、留学生と知り合う機会などがたくさんありました。仲良くなっていくうちに、学校の外でも一緒に遊ぶようになり、最初は全く理解できなかった英語で少しずつ会話が出来るようになりました。実際に留学に行った事がある先輩などから話を聞いていくうちに、漠然と考えていた留学についても真剣に考えるようになり、2009年8月から1年間フィンランドに留学することが出来ました。

留学中は、英語でビジネスを学びましたが、プリントやレポートはもちろん全て英語で、ビジネス用語などを全然知らなかった私は電子辞書を片手に日々悪戦苦闘していました。西洋人のように積極的になれなかった事などもあり、なかなか友達も出来ませんでした。2、3ヶ月位経った頃から少しずつ

留学中の中尾さん（前列2列目の右端）



友達もでき、帰って来る時には、空港で抱き合いながら、みんなで号泣してしまう位仲良くなっていました。実際に日本から出ていろいろな国々の人と接してみて、今まで私が住んでいた世界がとても狭く感じ、今までは全く興味を持てなかった事に対して自然と興味が湧く様になりました。考え方なども1年間で大きく変わったと思います。

今は、小さい頃からの夢だった航空関係に進む為に就職活動中ですが、不景気のためあまり思うようにいかず、卒業後の進路をもう一度考えているところです。これからの自分の人生がどうなっていくのか、いろいろな道があり可能性があると思うと、とてもワクワクします。就職先が決まらないからどうしたらいいのだろう…と後ろ向きに考えるのではなく、このように前向きに考えられるようになったのも、留学して、自分に自信が持てるようになったからです。

大阪学院大学では、やる気があれば自分自身を成長させられる授業やプログラムがたくさんあります。例えば、交換留学では休学せずに外国で勉強する事ができ、さらに奨学金までもらう事ができます。たくさんの資格取得の為のコースもあります。授業で北海道までスキーとスノーボードをしに行く面白い授業もあります。私は、北海道で知り合ったみんなとスキー・スノーボードのサークルを立ち上げました。

入学した時は永遠に続くような気がする大学生活ですが、実際は本当にあつという間に終わってしま

います。チャンスは皆さんに平等にあります。どうかこの素晴らしいチャンスを無駄にする事なく、有意義な学生生活を送ってください。

(ナカオ タカヨ)

編集後記

3月11日東北・関東地方を襲った大地震と津波、そしてそれに続く原発事故は、多くの人々から平和な日常を奪い、人々を計り知れない悲しみと不安に陥れました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

このような難しい状況のなかで、声を掛け合い、助け合う避難所の人々、命懸けで原発復旧作業に取り組む作業員の方々、ボランティアとして被災地に入る人々、義援金を贈る人々・・・日本人がこんなに強くて優しく、頼もしくて温かい心を持っていることを再認識しました。大丈夫、絶対乗り越えられます。必ず復興できます。頑張ろう、日本！

今号には6名（卒業生3名、4年次生3名）が寄稿してくれました。そのうち3名が、厳しかった就職活動について触れています。長引く不況で日本経済は低迷し、縮小した労働市場が、就職活動中の大学生や高校生に大変な苦戦を強いています。そんな景状下でも大阪学院大学の学生は、就職活動の中での苦労や挫折をバネにして常に前向きに取り組み、決して諦めずチャレンジをし続け、最終的に内定を獲得しています。この子たちのチャレンジ精神が、災害と不況で疲弊した日本を元気づけ、この国難から復活させる原動力となることは間違いありません。頑張れ、若者たち！

ニューズレター 第5号

発行 2011年3月30日

発行者 大阪学院大学外国語学部

発行者住所 〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目 36-1

(電話) 06 (6381) 8434

(学部 URL) http://www.osaka-gu.ac.jp/dhp/gaikokugo_gakubu/